

AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

TOP INTERVIEW

秋田商工会議所
会頭 三浦 廣巳氏

平成2年1月秋田日産自動車(株)社長(現会長)。平成10年4月秋田ワールドゲームズ2001組織委員会事務総長。平成15年4月秋田ノーザンブレッツRFC会長。平成30年9月在秋田フィジー共和国名誉領事就任。平成25年11月から秋田商工会議所会頭として、起業および事業承継の支援に力を注ぐとともに「新型コロナウイルスに関する経営相談窓口」を設置し、会員企業の資金繰りなどの相談に対応。令和3年9月には広小路を歩行者天国にして「広小路バザール」を初開催し、約2万人の来場があった。



目標や夢は、掲げないと達成できないし叶えられない

今回は秋田商工会議所 三浦廣巳会頭にインタビューさせていただきました。高校から始めたラグビーで得た経験を生かした経営、また商工会議所会頭だからこそ見える秋田のビジネスの近況と展望などもお聞かせいただきました。

工藤 三浦会頭、日頃より多方面で大変お世話になっていますが、改めて三浦会頭のご経歴について詳しくお聞かせください。

三浦 秋田市に生まれ、大学時代に県外で勉強していましたが、その後はずっと秋田で暮らしています。学生時代はスポーツに熱心で小学校では今とは違って体型も細かったので、鍛える目的もあり剣道を、中学では身長を伸ばす目的でバレーボールをしていました。そして高校時代にラグビーに出会いました。

当時、秋田高校ラグビー部は強豪でしたが、実は部員集めに苦労しており、ラグビー部からの勧誘でラグビーを始めました。当時はまだ身長も体型も今のようがっしりとしていなかったのが、フォワード最軽量という位置づけでした。部員は少なかったですが、当時の全国最強といわれた秋田工業に勝って、花園(全国高等学校ラグビーフットボール大会)に出場できました。

工藤 やはり三浦会頭といえばラグビー！というイメージを持っている方も多いと思

いますが、ラグビーの経験が経営や経済活動に活かされていることがありましたらぜひお聞かせください。

三浦 部員が少ない環境で活動したこともあり、高校ラグビー時代と同様に会社にも補欠はないという姿勢で経営に臨んでいます。ラグビーはチームスポーツですが、ある意味ではポジションによって不公平なスポーツでもあるとも思っています。陽のあたる場所もあれば、縁の下の力持ちもいるそんなスポーツです。だからこそ仲間を想う気持ち、感謝の気持ちが大切になります。仲間の次のプレーがやりやすくなるようにタックルをしたり相手を取りやすいパスをしたりします。みんながチームのために自己犠牲を払います。チームとしてのラグビーと、組織としての企業には多くの共通点があります。ラグビーに15のポジションがあるように、会社も人によって役割や仕事の違いが、仲間意識の薄い企業やグループは、長く続かない傾向にあるように思っています。

工藤 ラグビーはポジションによって不公平なスポーツ!?といわれてみると確かにそうかもしれませんね。そう考えると“one for all, all for one”といった合言葉の存在も腑に落ちます。

ご自身の経営で心掛けている点などがあれば教えていただけますでしょうか？

三浦 会社はいつか潰れるものということを念頭に置いて考えています。ですから逆に考えると会社は潰れないように考え対策していると会社は継続していくと思っています。当たり前ですが、いい加減な対応をしたり、雑な計画を立てたりしたらよくないです。私の会社は自動車の販売、整備です。お客様のことや経営のことはもちろん、社員のこと社会のこと環境のこと市場のことなど、すべてにおいてどうしたら潰れにくい会社になるのか？常に丁寧に考えなければならぬと思っています。

工藤 ありがとうございます。次に、コロナ禍であることも含め秋田のビジネス環境について感じることをお聞かせください。

三浦 まずコロナ禍については秋田商工会議所の会頭として会員企業を一社も脱落させずに、強化・発展させるという使命があります。あとは地域課題としては、経営者の高齢化、業界による格差や業界内の格差の拡大です。中小企業は大企業よりも率先して脱炭素、SDGs、デジタル化に取り組む必要があります。社会環境が大きく動いている今、企業も経営も変わらなければならないのは必然かと思えます。特に企業にとって人は極め

あきたBIZフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

て重要な存在です。採用や定着に関しては従来の方法の他にも様々な工夫の中で、採用のアプローチや従業員への働きがいを用意することは必要不可欠だと感じています。

工藤 やはり最後は人ですね。全国的にみると、今までとは違った人材活用や働き方に取り組む企業、様々なリクルート戦略を持つ企業が、急増していますね。秋田でもそういった企業がドンドン増えてきそうですし、もっともっと増えてほしいですね。

次に秋田でビジネスをする上でのメリットやビジネスチャンスに思える点などがあればお聞かせください。

三浦 昔と比べると、東京などの主要都市への移動時間が大幅に短縮され、移動や流通がとても便利になったことがメリットです。今までは秋田に娯楽がないと言って出ていく人も多かったですが、今では早く移

動でき、さらにより便利になっていくため、遊びに行きたいときに秋田から東京に簡単に遊びに行けます。もちろん仕事もそうです。今まで秋田のデメリットだと思っていたことを大きく覆すことで、むしろ首都圏からの距離が遠いことすら、今後はメリットになっていくのでは？と思っています。豊かな自然や風土や景色、コロナでも分かるように危機管理に強い土地や県民性、地価や物価が安いこと。こういった秋田のメリットを生かしたビジネスが増えるというのではないのでしょうか。

工藤 ありがとうございます。最後に起業家或いはこれから起業を考えている皆さんにメッセージをお願いします。

三浦 私がやっていて良かったことに、手帳にやりたいことやアイデアを書き留めておくことがあります。これによって潜在意

識の中で相乗効果を作ることができました。また自分の実力からかけ離れた、分不相応な目標、夢も叶えることができました。目標や夢は掲げないと達成できないし叶えられないです。みなさんに見せられないようなこともたくさん書きましたよ。

工藤 ぜひいつか見せてください。(笑)

三浦会頭の趣味について教えていただきました。

三浦会頭は朝の散歩とストレッチをルーティンにしているそうです。また、ラグビーの応援観戦は大好きで、時間があるときにはスタジアムに行って秋田ノーザンブレッツを応援したり、世界中のラグビーの試合をテレビ観戦したりしているそうです。またお話の中で、ラグビー王国秋田の復活ということも掲げて応援する熱い思いも語って頂きました。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター 秋田大学2年 小林 恵大

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

